ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER

統制ベースの検査およびサインオフ管理の表記規則

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 6

2018 年 10 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2018 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at http://softwareag.com/licenses.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at http://softwareag.com/licenses and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at http://softwareag.com/licenses and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

1 テキストの表記規則 1

2 はじめに 2

3 本マニュアルの内容 3
3.1 目的および範囲 3

4 ARIS 規則 4
4.1 統制およびプロセスの識別 4
4.1.1 レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC) 4
4.2 企業の追加階層の文書化 6
4.2.1 検査者の階層 7
4.2.1.1 組織ユニット (ARIS) と検査者階層要素 (ARCM) の割り当て 8
4.3 ユーザーとユーザー グループの作成 10
4.3.1 役割と要員の割り当て 13
4.4 統制およびリスクの分析と、検査の展開 15
4.4.1 統制 17
4.4.2 リスク 21
4.4.3 検査の定義 24
4.5 一般モデル作成規則 27
4.5.1 自動の統制検査 27
4.5.2 サインオフ 27
4.5.2.1 プロセス階層を使用するサインオフ 27
4.5.2.2 規定階層を使用するサインオフ 28
4.5.2.3 検査者階層を使用するサインオフ 29
4.5.2.4 組織階層を使用するサインオフ 30

5 法的情報 31
5.1 文書範囲 31
5.2 データ保護 32
5.3 免責事項 32

1 テキストの表記規則

各項目の表記規則について説明します。

- メニューアイテムやダイアログ ボックスなどの UI 用語は角括弧（[]）で表記されます。
- ユーザーが入力する内容は、山括弧（< >）で表示されます。
- 複数行から成る長いディレクトリ パスなどの、1 行から成る例のテキストは文字 ↵ により行の最後で分割されます。
- ファイルからの抽出テキストは、次のフォントで表示されます。

  ```
  This paragraph contains a file extract.
  ```

2 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと業務ファンクションを記録すると、(一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など) さまざまな利点があります。 ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。 ARIS Architect において関連するオブジェクトを適切に保守するために、本マニュアルおよび一般表記規則の表記規則を順守することをお勧めします。 これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager に転送されて、再利用することができます。

3 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

3.1 目的および範囲

目的:モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの:ユーザーの文書

4 ARIS 規則

4.1 統制およびプロセスの識別

4.1.1 レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト (組織ユニット、役職、役割、アプリケーション システムなど) を補足することができます。 このため、たとえば [実行される] 接続線を持つ統制は、EPC のファンクションに直接接続できます。

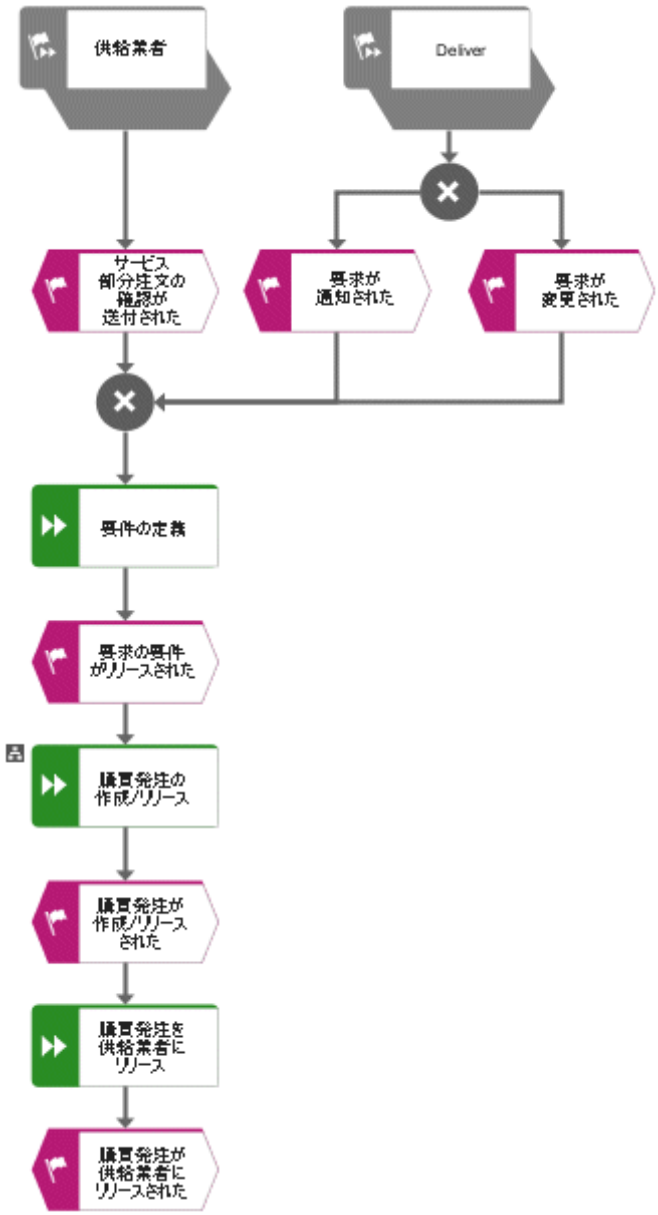

図 1: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図
統制 (OT_FUNC、ST_CONTR)	EPC
統制 (OT_FUNC、ST_CONTR)	ビジネス コントロール図

レベル 3 - ファンクション割当図 (FAD)

EPC は、簡略化した EPC (つまり、組織ユニット、役職およびアプリケーション システムを含めない) としてモデル化することもできます。こうした追加オブジェクトとファンクションとの関係は、ファンクション割当図でモデル化され、ファンクションにアサインされます。ファンクション割当図のオブジェクトとシンボル タイプを使用することによって、簡略 EPC を拡張 EPC にすることができます。そのオブジェクトとシンボル タイプは次のとおりです。

- ファンクション
- 役職
- 組織ユニット
- 組織ユニット タイプ
- グループ
- 役割
- 内部要員
- アプリケーション システム
- アプリケーション システム タイプ
- 情報媒体 (ファイル、文書)
- 統制 (オブジェクト タイプ: OT_FUNC、シンボル タイプ: ST_CONTR)

4.2 企業の追加階層の文書化

ARIS Risk & Compliance Manager に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。

4.2.1 検査者の階層

検査者の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用して ARIS の組織図でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。

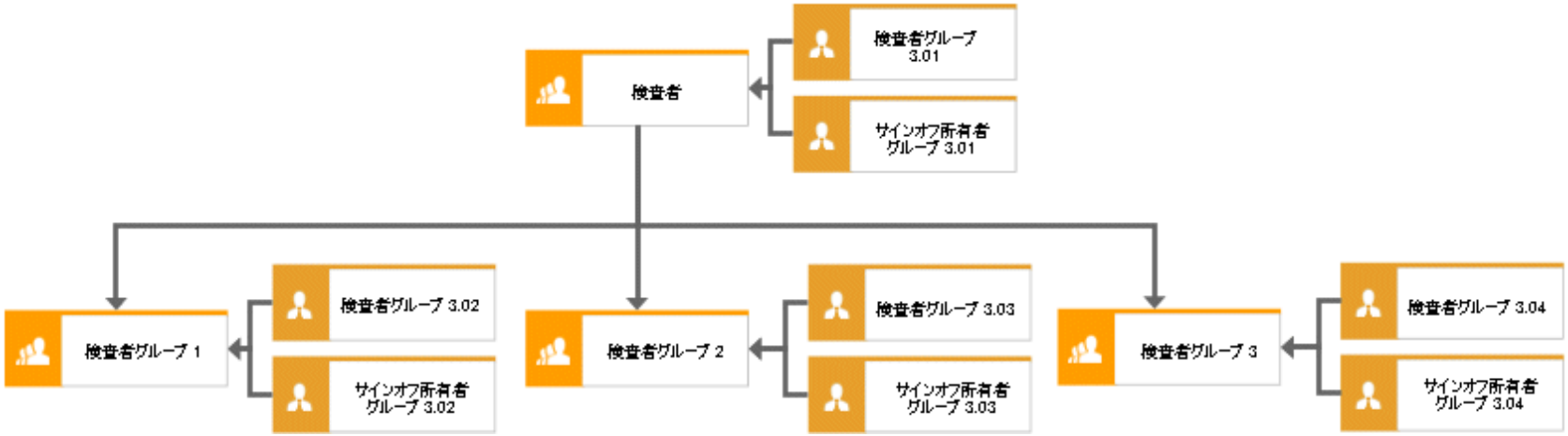

図 2: 検査者の階層

そのため、ARIS Risk & Compliance Manager では検査者の階層要素は組織ユニットごとに作成されます (例外: 最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています)。現在、各階層要素は、1 ユーザー グループにのみ割り当てることができます。

このため、上の例では検査者階層要素 [検査者]、[検査者グループ 1]、[検査者グループ 2]、[検査者グループ 3] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[検査者] は、ほかの階層要素の上位に位置します。

4.2.1.1 組織ユニット（ARIS）と検査者階層要素（ARCM）の割り当て

次の属性割り当ては［組織ユニット］オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
組織ユニット	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	hnumber	検査者階層には関係なし
				HIERARCHY	type	検査者階層（値 = 1）
組織ユニット	説明/定義	AT_DESC		HIERARCHY	description	
			○	HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
組織ユニット	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT		HIERARCHY	signoff	
組織ユニット	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	組織ユニットのオカレンスを含むモデルのGUID。最初に利用できる組織図が選択されます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
組織ユニット	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
組織ユニット	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	
				HIERARCHY	children	下位階層ユニット
				HIERARCHY	so_owner	関連するサインオフ所有者グループ
				HIERARCHY	tester	関連する検査者グループ

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが示されます。

4.3 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。

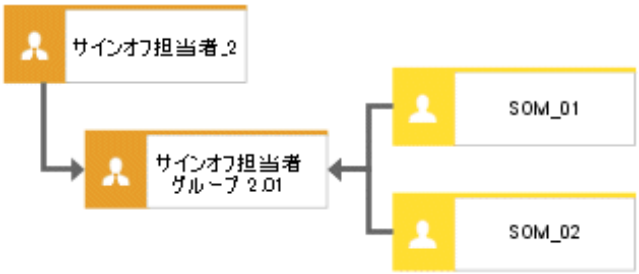

図 3: ユーザーおよびユーザー グループの構造

上位役割 [サインオフ担当者_2] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。[サインオフ担当者グループ 2.01] は、[サインオフ担当者_2] の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり [サインオフ担当者_2] > 役割: サインオフ担当者、レベル: 2 (または環境固有) です。上位役割 (この場合では、[サインオフ担当者_2]) には、ARIS Risk & Compliance Manager ではユーザー グループは生成されません。

以下がさまざまな役割レベルに適用されます:

- 役割レベル 1: 環境汎用

  役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループに割り当てられたすべての環境に適用されます。

- 役割レベル 2: 環境固有

  役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループが作成された環境に適用されます。

- 役割レベル 3: オブジェクト固有

  役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループが作成された現在の環境にある関連するオブジェクトに適用されます。

上記の例では、[サインオフ担当者グループ 2.01] ユーザー グループは、[サインオフ担当者] 役割およびレベル「2」(複数環境にわたる権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。さらに、ユーザー ID が「SOM_01」のユーザーが生成されます。

役割名（ARCM）と役割（ARIS）の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager でのユーザー グループと ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

役割（ARCM）	役割（ARIS）	役割レベル
roles.testauditor	検査監査人	レベル 1、2、および 3
roles.testauditorexternal	検査監査人（外部）	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l1	不備監査人（L1）	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l2	不備監査人（L2）	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l3	不備監査人（L3）	レベル 1 および 2
roles.deficiencymanager.l1	不備担当者（L1）	レベル 1、2、および 3
roles.deficiencymanager.l2	不備担当者（L2）	レベル 1、2、および 3
roles.deficiencymanager.l3	不備担当者（L3）	レベル 1、2、および 3
roles.groupusermanager	ユーザー/ユーザー グループ担当者	レベル 1 および 2
roles.hierarchymanager	階層担当者	レベル 1 および 2
roles.riskmanager	リスク担当者	レベル 1、2、および 3
roles.controlmanager	統制担当者	レベル 1、2、および 3
roles.signoffmanager	サインオフ担当者	レベル 2 および 3
roles.signoffreviewer	サインオフ評価者	レベル 3 のみ
roles.signoffowner	サインオフ所有者	レベル 3 のみ
Roles.testmanager	検査担当者	レベル 1、2、および 3
roles.testreviewer	検査評価者	レベル 3 のみ
roles.tester	検査者	レベル 3 のみ
roles.issueauditor	課題監査人	レベル 1 および 2
roles.issuemanager	課題担当者	レベル 1 および 2
roles.incidentauditor	インシデント監査人	レベル 1 および 2
roles.incidentmanager	インシデント担当者	レベル 1 および 2
roles.incidentreviewer	インシデント評価者	レベル 3 のみ
roles.incidentowner	インシデント所有者	レベル 3 のみ
roles.lossauditor	損失監査人	レベル 1 および 2
roles.lossmanager	損失担当者	レベル 1 および 2

役割（ARCM）	役割（ARIS）	役割レベル
roles.lossreviewer	損失評価者	レベル 3 のみ
roles.lossowner	損失所有者	レベル 3 のみ

4.3.1 役割と要員の割り当て

役割 (ARIS) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	–	role	○	役割と役割レベルの値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	–	rolelevel	○	
ユーザー	–	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが示されます。

要員（ARIS）とユーザー（ARCM）の割り当て

次の割り当ては［要員（ユーザー）］オブジェクトに適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログオン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	［環境］フィールドは、データのインポート先の環境によって識別されます。
		substitutes	-	［代理］フィールドは、手動でのみ設定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが示されます。

4.4 統制およびリスクの分析と、検査の展開

プロセスで識別された統制に関して、関連するリスクおよび検査の定義（責任を含む）は、ビジネス コントロール図で定義できます。また、どの統制がどの貸借対照表項目に影響を及ぼすかといった、企業階層への影響についても、記録することができます。

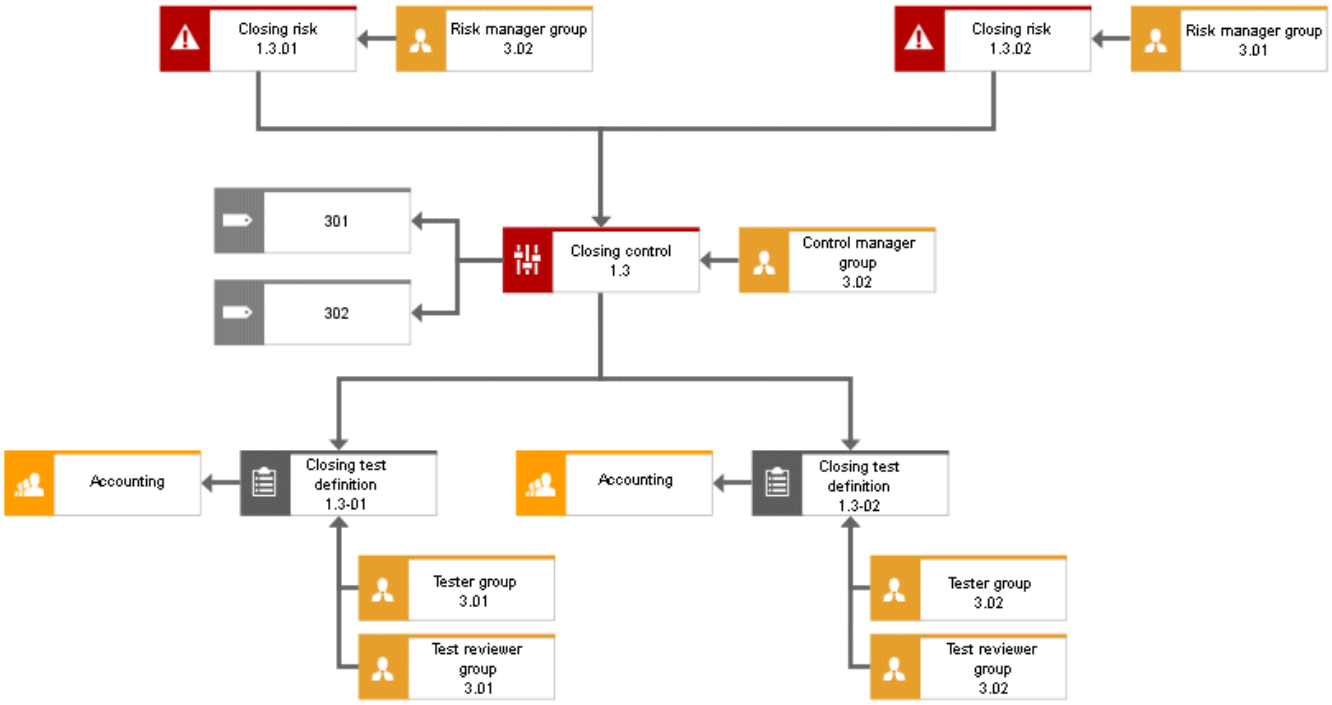

図 4: ビジネス コントロール図の構造

リスク担当者グループ、検査担当者グループ、および統制担当者グループの割り当てはオプションです。

リスク オブジェクトと関連オブジェクトの関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
統制	影響する	用語	この接続線によって、規定への関係が作成される。
統制	監視される	検査の定義	この接続線によって、検査の定義への関係が作成される。
統制	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される。
リスク	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、リスク担当者への関係が作成される。
リスク	減らされる	統制	この接続線によって、統制への関係が作成される。
検査の定義	影響する	組織ユニット	この接続線によって、関係する組織ユニットへの関係が作成される。
検査の定義	割り当てられている	役割	この接続線によって、検査者、検査評価者および検査担当者への関係が作成される。

4.4.1 統制

統制は、[ファンクション] オブジェクト (OT_FUNC) とそのデフォルト シンボル (ST_CONTR) を使用して ARIS でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が設定されている統制ごとに統制が作成されます。統制は一意に定義する必要があり、再使用はできません。

ファンクション (統制) (ARIS) と統制 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [ファンクション (統制)] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
統制	名前	AT_NAME	○	control	name	
統制	統制 ID	AT_AAM_CTRL_ID		control	control_id	
				control	manager_group	役割への接続線によって指定され、統制担当者への対応するリンクが ARIS Risk & Compliance Manager に保存される。
統制	統制の頻度	AT_AAM_CTRL_FREQUENCY		control	control_frequency	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
統制	統制の実行	AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT		control	control_execution	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
統制	統制の効果	AT_AAM_CTRL_EFFECT		control	control_effect	
統制	内部統制の構成要素	AT_AAM_COSO_COMPONENT_CRTL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING		control	control_type	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
統制	統制活動	AT_AAM_CTRL_ACTIVITY		control	controls	
統制	統制の目的	AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE		control	control_objective	
統制	キー コントロール	AT_AAM_KEY_CTRL		control	key_control	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
統制	アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		control	assertions	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせて発生できない。
				control	control_function	ファンクションへの接続線を使用して識別されます。プロセス階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
				control	testdefinitions	検査の定義への接続線を使用して識別されます。検査の定義への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
			○	control	financial_statement	用語への接続線を使用して識別されます。規定階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが示されます。

4.4.2 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用して ARIS でモデル化します。[ARCM の同期] 属性が設定されている統制でモデル化されるリスクのみが ARIS Risk & Compliance Manager との同期に関連します。リスクは再使用できます。

リスク (ARIS) とリスク (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [リスク] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	名前	AT_NAME	○	risk	name	
リスク	リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		risk	risk_id	
リスク	リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC		risk	risktype	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
リスク	説明/定義	AT_DESC		risk	description	
リスク	影響	AT_AAM_IMPACT		risk	impact	
リスク	確率	AT_AAM_PROBABILITY		risk	probability	
リスク	リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		risk	risk_catalog1	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		risk	risk_catalog2	
リスク	タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		risk	文書: ▪ 名前 ▪ タイトル	リンクした文書を示します。
リスク	リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		risk	文書: ▪ リンクを開いてください	リンクした文書を示します。
リスク	ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4		risk	文書: ▪ 名前 ▪ タイトル	リンクした文書を示します。
リスク	ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4		risk	文書: ▪ リンクを開いてください	リンクした文書を示します。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				risk	controls	統制への接続線を使用して識別されます。統制への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
				risk	manager_group	役割への接続線を使用して識別されます。 リスク担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが示されます。

4.4.3 検査の定義

検査の定義は、[検査の定義] オブジェクト (OT_TEST_DEFINITION) を使用して ARIS でモデル化します。[ARCM の同期] 属性が設定されている統制でモデル化される検査の定義のみが ARIS Risk & Compliance Manager との同期に関連します。

検査定義 (ARIS) と検査の定義 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [検査の定義] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
検査の定義	名前	AT_NAME	○	testdefinition	name	
検査の定義	検査活動	AT_AAM_TEST_ACTIVITY		testdefinition	testingsteps	
検査の定義	検査の種類	AT_AAM_TEST_NATURE_INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_REPERFORMANCE		testdefinition	test_nature	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
検査の定義	検査タイプ	AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS	○	testdefinition	test_type	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
検査の定義	検査の規模	AT_AAM_TEST_SCOPE		testdefinition	testextend	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
			○	testdefinition	owner_group	役割への接続線を使用して識別されます。 検査者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
検査の定義	イベント駆動のテスト ケース許可	AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ALLOWED		testdefinition	event_driven_allowed	「true」が設定されている場合は、検査の定義は自動の統制検査にのみ使用されます。同時に、検査の頻度は [場合に応じる] に設定されている必要があります。
検査の定義	検査の頻度	AT_AAM_TEST_FREQUENCY	○	testdefinition	testfrequency	
検査の定義	実行期限 (単位: 日)	AT_AAM_TEST_DURATION	○	testdefinition	testduration	
検査の定義	検査の定義の開始日	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE	○	testdefinition	testdefinition_startdate	
検査の定義	検査の定義の終了日	AT_AAM_TESTDEF_END_DATE		testdefinition	testdefinition_enddate	
検査の定義	統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	○	testdefinition	control_period	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
検査の定義	オフセット (単位: 日)	AT_AAM_TESTDEF_OFFSET		testdefinition	offset	
			○	testdefinition	reviewer_group	[検査評価者] の役割を使用している役割への接続線を使用して識別されます。検査評価者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
				testdefinition	manager_group	[検査担当者] の役割を使用している役割への接続線を使用して識別されます。検査担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			○	testdefinition	effected_orgunit	組織ユニット、グループ、役職、または場所への接続線を使用して識別されます。関連する組織ユニットへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
検査の定義	フォローアップ使用可	AT_AAM_TESTDEF_FOLLOWUP		testdefinition	isfollowup	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが示されます。

4.5 一般モデル作成規則

モデル化されたビジネス コントロール図内の統制は一意である必要があり、2 つ以上のビジネス コントロール図にオカレンスを持つことはできません。統制は、1 つのファンクションと、最低 1 つの検査の定義に接続することができます。

リスクは 1 つのビジネス コントロール図のみに 1 つのオカレンスを持つことができます。リスクは、[ARCM の同期] 属性が設定されている最低 1 つの統制に接続できます。

検査の定義は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があり、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。同時に検査の定義は、[ARCM の同期] 属性が設定されている 1 つの統制に接続することができます。

4.5.1 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動のテスト ケース許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。

さらに、年内にシステムによってテスト ケースが生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [検査の頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

4.5.2 サインオフ

4.5.2.1 プロセス階層を使用するサインオフ

サインオフに関して、ファンクションとサインオフ所有者グループ（役割）間の関係は、付加価値連鎖図でモデル化されます。次の図に例を示します。

同期に関連する、初期選択されるファンクションは、統制への [実行される] 接続線に設定された [ARCM の同期] 属性によって決定されます。

図 5: ファンクションの割り当て – サインオフ所有者グループ

[決定する] 接続線によって、サインオフ所有者グループ (ユーザー グループ) とプロセス階層要素間の関係が作成されます。

4.5.2.2 規定階層を使用するサインオフ

規定階層を使用するサインオフに関しては、規定とサインオフ所有者グループとの関係がファンクション割当図でモデル化されます。[所有者である] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

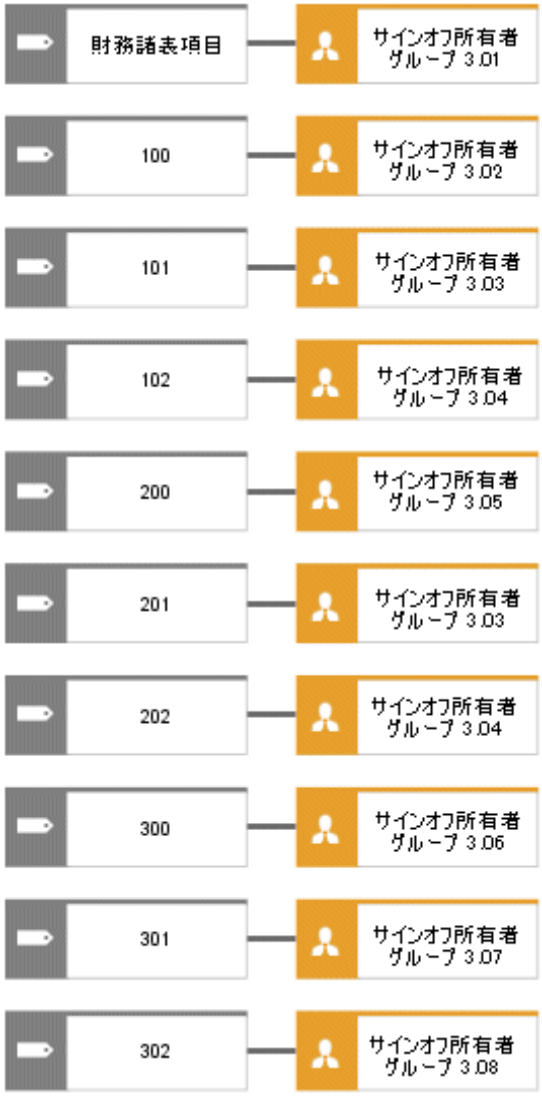

図 6: 規定 - サインオフ所有者グループの割り当て

4.5.2.3 検査者階層を使用するサインオフ

検査者階層を使用するサインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が検査者階層の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

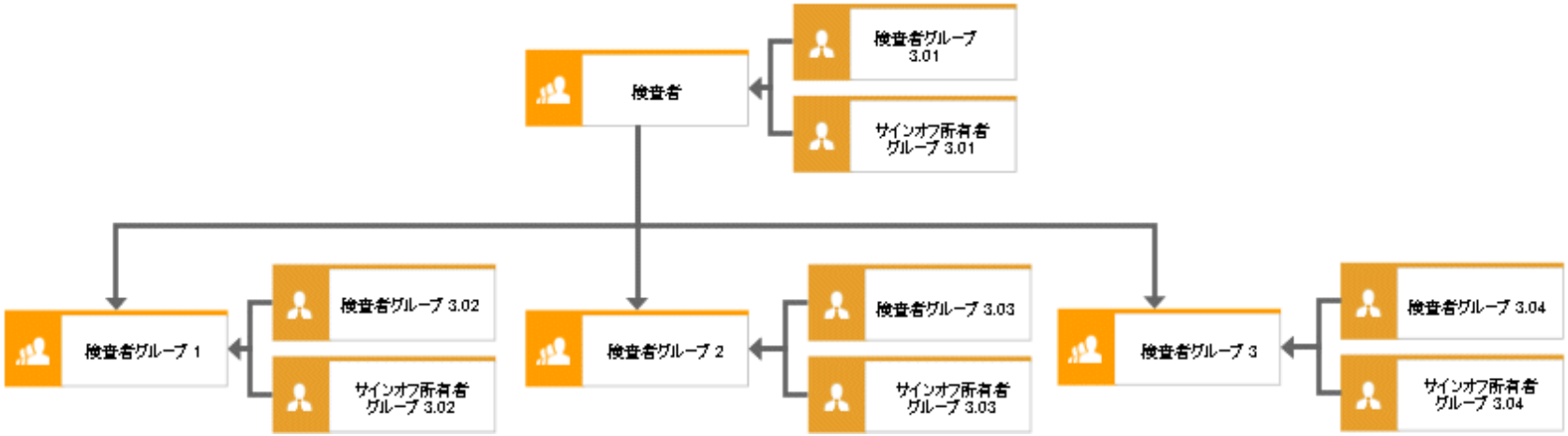

図 7: 組織ユニット (検査者) – サインオフ所有者グループの割り当て

4.5.2.4 組織階層を使用するサインオフ

サインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が企業組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

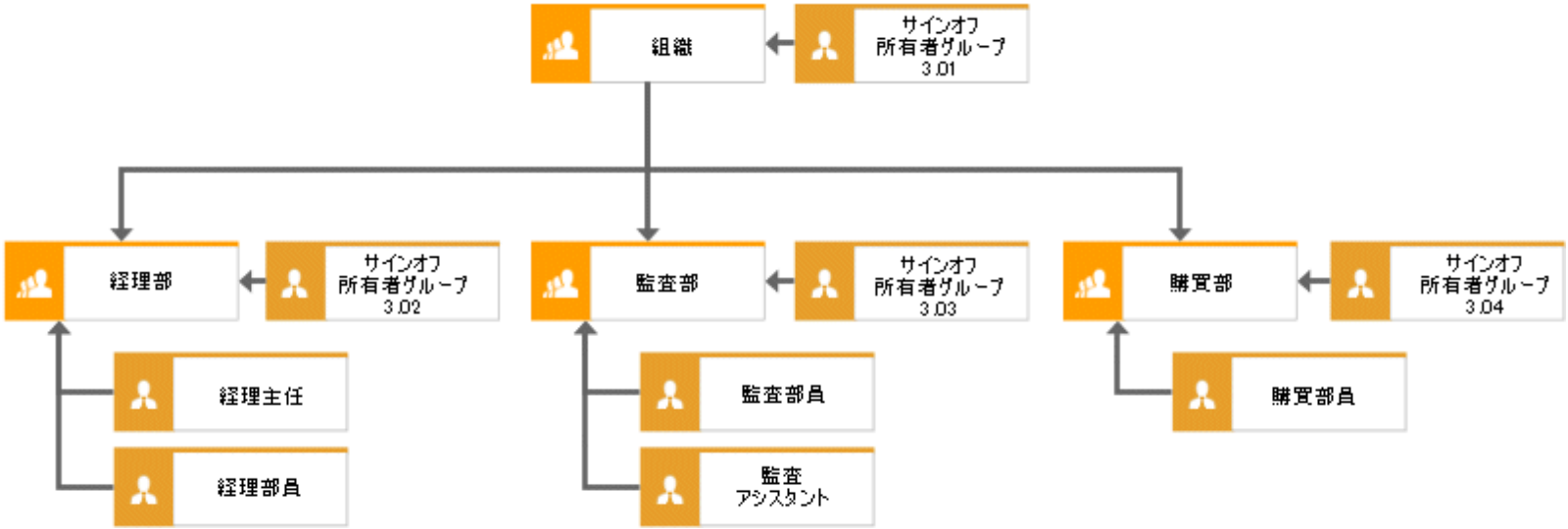

図 8: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループ

5 法的情報

5.1 文書範囲

記載情報は、公開時点における設定および機能についての説明です。文書とソフトウェアは生産サイクルが異なるため、設定および機能の説明は実際の設定および機能と異なる場合があります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みになり、その情報を考慮に入れた上で、製品をインストール、設定およびご使用ください。

Software AG のサービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオのみしか記述できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示 (特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ) に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS クライアント	ARIS Server を介して共有データベースにアクセスする ARIS Architect または ARIS Designer などのすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザーを使用してアクセスできる ARIS クライアントを指します。

5.2 データ保護

Software AG の製品は、個人データの処理に関して EU 一般データ保護規則 (General Data Protection Regulation; GDPR) に準拠した機能を提供しています。

該当する場合は、対応する管理文書に適切な手順が記録されます。

5.3 免責事項

ARIS 製品は個人による使用を目的として開発されています。内容の生成や、インターフェイスを使用したオブジェクト/成果物のインポートなどの自動化プロセスによって、データ量が膨大になり、その実行が処理能力や物理的な限界を超える可能性があります。使用可能なメモリが操作の実行やデータの格納に対して不十分な場合には、物理的な限界を超える可能性があります。

ARIS Risk & Compliance Manager を効率的に操作するには、信頼性があり、高速なネットワーク接続が必要です。応答時間が不十分なネットワークでは、システムのパフォーマンスが下がり、タイムアウトを引き起こす可能性があります。

ARIS 製品が仮想環境で使用されている場合は、オーバーブッキングのリスクを回避するために十分なリソースが利用できることが必要になります。

このシステムは、400 人のユーザーが同時にログオンする内部統制システムのシナリオでテストされました。これには 2 百万個のオブジェクトが含まれます。適切なパフォーマンスを確保するために、500 人を超えるユーザー以上が同時にログオンしない状況で運用することを推奨します。顧客固有の調整、特に一覧とフィルターの調整はパフォーマンスを悪化させます。